

第10回 新潟こころの発達医学セミナー開催報告書



はじめに

新潟大学「こころの発達医学センター」は、こころの発達についての研究を進めているとともに、その啓発活動や発達医学領域の人材育成に努めています。その一環として、一般の方々、学生、研修医、医療・教育・福祉関係者を対象に、「新潟こころの発達医学セミナー」の第10回目を2017年7月29日に、旭町キャンパス第3講義室にて開催しました。会場には多くの聴講者が集まり、この分野に対する社会的関心の高さが伺えました。

参加者内訳	(人)
医療関係者	42
教育関係者	37
福祉関係者	31
学生	8
一般	26
計	144

セミナーの様子



本セミナーではシンポジウム「新潟の発達障害医療の現状とこれから」を新潟大学大学院医歯学総合研究科特任准教授の江川純先生を座長として行い、続いて特別講演を同精神医学分野教授の染矢俊幸先生を座長に奈良県立医科大学精神医学講座講師の牧之段学先生を講師としてお招きして行いました。また、新潟大学学長の高橋姿先生、新潟大学医学部小児科学教室特任教授兼長岡赤十字病院小児科部長の田中篤先生にそれぞれ開会および閉会のあいさつを頂きました。

シンポジウム
「新潟の発達障害医療の現状とこれから」

「新潟の小児科における心身症・発達障害医療の現状と展望」

目黒茂樹先生
(長岡赤十字病院小児科)



- 今後の展望・課題
- ・専門医の育成(できれば各地域に専門性を持った医師を)
 - ・情緒障害児短期治療施設(児童心理治療施設)の設置
 - ・不登校児の受け入れができる病棟
 - ・身体疾患も診れる精神科病棟
 - ・成人領域の発達障害診療(transition、親からの受診希望)
 - ・学校との連携(教育支援、不登校への対応・受け入れ先の整備)

目黒先生は長岡赤十字病院小児科での心身症・発達障害医療の特色を述べられた後、実際の症例を通して新潟県内の他施設との連携や今後の課題などについても解説していただきました。専門医の育成、情緒障害児短期入所施設の開設、身体疾患も診療可能な児童精神科病棟の開設、成人領域の発達障害診療、学校との連携などの必要性を訴えられました。

「新潟の児童思春期精神科医療の現状と展望」

杉本篤言先生

(新潟大学大学院医歯学総合研究科 地域精神医療学講座)



望ましい連携体制

- ・ 外来通院で対応可能なケースは数が多いが、入院が必要となる重いケースはそれほど多くない。
- ・ 必要十分な医療が県内にいけるためには、入口機関と専門機関との紹介・逆紹介がスムーズに機能する必要がある。
- ・ 現在は、県立精神医療センターへの紹介入院の流れはうまく動き始めているが、逆紹介をどうやって増やしていくかが課題。

これからの新潟県

- ・ 精神科と小児科もしくは入口機関と専門機関との間で、紹介や入院についてはよい連携が出来つつあるが、今後は逆紹介をいかに増やすかが課題である。
- ・ 中越小児こころの臨床研究会のように科の垣根を超えた協力体制の構築が見えてきた部分もあり、さらにこの流れを押し進めていきたい。
- ・ そのための研修機関として、小児科医と精神科医が一緒に働くような病棟があってもいいかも知れない(全国の有名病院ではそういうところがいくつかある)。
- ・ 児童精神領域の専門医の育成も急務である。

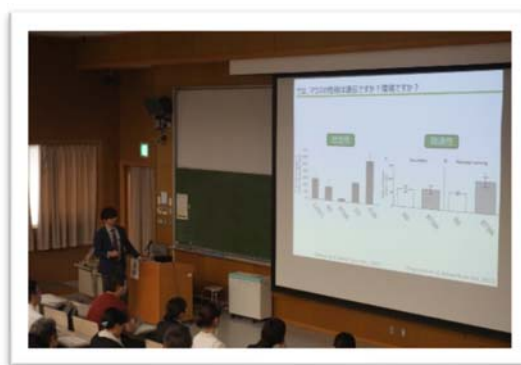
杉本先生は新潟大学精神科児童グループの発足や県内唯一の児童精神科入院病棟である新潟県立精神医療センターC1 病棟と県内の医療機関との連携などについて紹介して頂きました。その後ケースを通じて、県内の小児科ベースの医療施設と精神科ベースの医療施設との連携についても解説して頂き、今後の課題についても触れて頂きました。重症例の紹介については良好な連携ができてきているので次は逆紹介が課題であること、患者さんの利益のためには臨床と研究の双方が大切であるがこれらを並行して進めていくためにはやはり専門医の育成が急務であること、などが強調されました。

特別講演

「子ども時代の経験が決定づける脳機能と回復の可能性」

牧之段学先生

(奈良県立医科大学 精神医学講座 講師)



牧之段先生は自閉スペクトラム症の中核症状である「社会的コミュニケーションの障害」に関するさまざまな研究について解説されました。被ネグレクトモデルマウスの行動特性や、その脳内神経細胞のミエリン化の所見などが自閉スペクトラム症の病態解明につながる治験に今後発展していく可能性について示され、会場からも活発に質問が出ました。

おわりに

以上、第10回セミナーの様子を簡単にご報告させていただきました。
今後も定期的にセミナーを開催し、子どものころに関する最新の知見や
新潟大学精神医学教室の研究内容などを皆様にお伝えし、
意見情報交換などを行える場として、
地域に根差した活動を行っていきたいと思っております。

主催

新潟こころの発達医学研究会

協賛

アステラス製薬株式会社、日本イーライリリー株式会社、塩野義製薬株式会社、
大塚製薬株式会社、大日本住友製薬株式会社、Meiji Seika ファルマ株式会社、
株式会社ツムラ、ヤンセンファーマ株式会社、持田製薬株式会社、
ファイザー株式会社、新潟大学協和会、吉富薬品株式会社